

オーストラレーシア経済学オリンピック 2025 報告書

文責：金融知力普及協会 鈴木達郎

概要

オーストラレーシア経済学オリンピック（以下 AAEO）は創立 3 年目を迎えた、国際的な高校生の経済学のコンペティションである。今回は、オーストラリア、ニュージーランド、ルーマニア、マレーシア、シンガポール、中国、モンゴル、香港、マカオ、ネパール、日本の 11 か国から 55 名の高校生が参加した。

協議内容は、経済学と計量経済学に関する筆記試験で競う個人部門と、経済政策の立案を行うプレゼンテーション作成で競うチーム部門となる。共に上位 3 位の発表のみとなり個々の採点や問題、模範解答などは開示されない。

日本は初出場であるが、政策プレゼンテーションで銅メダルの快挙だった。

大会はニューサウスウェールズ大学（以下 UNSW）の Gigi Foster 教授によって運営されており、会場も UNSW 構内で実施され、大会運営費用も UNSW が拠出している。ちなみに UNSW はオーストラリアきっての名門大学であり、2026 年度世界大学ランキングでは 20 位に入っている。（東京大学は 36 位）

日本チームは今回初参加。香港およびマカオの代表を派遣しているナイツ財団より紹介を受け参加を決定したものである。過去問の開示や推薦図書もなく、非常に準備が困難であった。問題はすべて英語で出題され、プレゼンテーションも英語で行う。英語が母国語ではなく、経済学を学ばず、プレゼンテーションの経験も少ない日本の生徒達には三重苦の状況であった。

競技内容

経済学の試験は 4 つの小論文で構成される。1) 保護主義の影響。2) 市中における貨幣の増加の影響。3) 生徒の出身国の経済政策の功罪について。4) 先進国の少子化対策について。経済理論をしっかり身に着けていることと、日ごろから経済報道に触れていることが求められているように見受けられる。

計量経済学の試験は、10 問の選択問題と、2 問の小論文問題。選択問題は様々なグラフが表示され、それらにより読み取れるものが問われた。小論文問題では、1) 自国の経済状況を海外の人に 5 枚のスライドで伝えるために使う指標を述べよ。2) 後進国の指導者にアドバイスするために、その国の指標を 3 つだけ調べるとしたら何を選ぶか。恐れていた計算問題などは出題されなかった。

政策プレゼンテーションのテーマは下記の通り。チームで自国の産業構成に影響を与えている政策を評価し、経済的根拠に基づいてその政策を維持・変更すべきかを提言せよ。

第 1 の課題：自国の産業政策の内容と種類を特定し、それが国全体にもたらす利益とコス

トを経済的観点から列挙せよ。少なくとも2つの技術的・分析的ツールを選び、その活用方法を説明せよ。税、補助金、規制などの政策介入が存在しない「自由市場シナリオ」との比較により、産業政策のコストと利益の主なカテゴリーを挙げよ。それぞれのコスト・利益の大きさ（「小」「中」「大」）を見積もり、根拠を簡潔に述べよ。

第2の課題：第1の分析に基づいて、国民全体の厚生最大化の観点から、既存の産業政策を変更すべきか否かを経済的根拠とともに提案せよ。

プレゼンテーションも求められるハードルが非常に高く、参加者は深夜まで作業に当たっていた。

行程

2025年 6月28日 オンラインでの経済学試験

7月1日 夜間出発の航空便にてシドニーへ

7月2日 早朝着。休養、計量経済学の自習。

7月3日 交流遠足、UNSW ツアー、交流ディナーなど

7月4日 オーストラリア準備銀行（豪中銀）ツアーおよびセミナー、NSW 州財務省ツアーおよびセミナー、パネルディスカッション、レセプションパーティ、政策プレゼンテーションテーマ発表。

7月5日 Gigi Foster 教授による計量経済学ミニセミナー。計量経済学試験。政策プレゼンテーション準備

7月6日 政策プレゼンテーション発表。結果発表、閉会式。

7月7日 観光（フェザーデール動物園）

7月8日 帰国

参加者

引率 金融知力普及協会 常務理事・事務局長 鈴木達郎

引率補助 早稲田大学 村田友惇

参加者 筑波大学付属駒場高校 早川惺

The Loomis Chaffee School 増島楷

AICJ 高校 麻生虎太郎

都立国立高校 鈴木亜里紗

都立国立高校 松浦有紗

結果

学科試験個人 金：ニュージーランド選手 銀：中国選手 銅：オーストラリア選手

政策プレゼンテーション 金：ルーマニア 銀：シンガポール 銅：日本

参加者感想文

筑波大学附属駒場高等学校 3 年 早川惺

私たち全員が一つのチームとなって課題に取り組み、成果を収められたこと、心から嬉しく思います。

意見をぶつけ合い、最良の着地点を探し出すことは決して容易ではありませんでしたが、最後には共にプロジェクトを完成させる仲間として、強い連帯感のもと発表に臨めました。海外の参加者との交流も本当に刺激的で、世界にはまだ見ぬ志ある仲間たちがたくさんいるのだなあと実感させられました。

帰国後の学びへのモチベーションも、一層高まるばかりです。

他のどんな大会でも体験することができない、最高の 7 日間でした。

チームの皆、そして、この大会に私たちを導いてくれた皆さんに、心よりありがとうと伝えたいです。

The Loomis Chaffee School 1 年生 増島楷

まず初めに、このたび AAEO の日本代表に選んでいただいたことを心より感謝申し上げます。プレゼンテーションでは、特に質疑応答の時間に予想外のトラブルや難しい質問もあり、苦勞することも多々ありましたが、最終的にはチームで力を合わせて乗り切り、銅メダルという結果につなげることができました。この経験を通して、臨機応変な対応力や、問題解決能力を大きく成長させることができた実感しています。また、今回の大会を通じて、世界には自分と同じように経済への情熱を持った仲間がたくさんいることを知り、大きな刺激を受けました。大会に参加したことで、経済学をさらに深く学びたいという気持ちがより一層強まりました。日本に帰ってからも、この経験を活かして一層努力していきます。改めて、日頃より支えてくださった鈴木さん、両親、チームメイトの皆さん、そして大会運営に携わったすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

都立国立高校 3 年生 鈴木亜里紗

今大会に参加するにあたってお世話になった多くの方々に、銅メダルという形で感謝の気持ちをお返しできたことを嬉しく思います。

今回のビジネスケースのテーマは、経済学者の視点から政策を分析・提案することが求められる高度なものでしたが、チームでの綿密な議論を重ねる中で、課題に対して多角的かつ論理的にアプローチすることが出来たと思います。

また、自分とは異なる文化圏の参加者との交流は、視野を広げると同時に、世界の多様な価値観や考え方に触れる貴重な機会となりました。

この大会で得た刺激と学びを活かして、経済をはじめとする幅広い社会問題への理解をより一層深めていきたいと思っています。

都立国立高校 3 年 松浦有紗

オーストラリア経済オリンピックでは、各国チームによるケーススタディが公開形式で行われ、国ごとに異なる戦略や、高度な専門性を有する発表が数多く見られ、大きな刺激を受けました。

なかでもチーム JAPAN は、実質 1 日という限られた準備期間の中で、ケーススタディに全力で取り組みました。意見や認識に食い違いがあった場面では、対面で率直に意見を交わし、互いの理解が一致するまで粘り強く議論を重ねました。こうした丁寧なコミュニケーションと高い結束力が、今回の受賞につながったのだと感じています。

このような貴重な経験を得られたこと、そしてチームとして成果を残せたことに、心から感謝しております。チーム JAPAN のメンバーをはじめ、鈴木さん、そして大会を運営してくださった主催者・関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。

AICJ 高等学校 3 年 麻生虎太郎

ず初めに、プレゼンラウンドでメダルを手にする経験を一緒に作り上げてくれたメンバーたちにリスペクトを送ります。今大会では、単なる知識の正確さだけではなく、「なぜそのように考えるのか」「なぜそれが起こるのか」「その先にどのような社会的・経済的影響があるのか」を問われる問題が多く出題されました。そのなかで、私は「答えを出すこと」ではなく「問いと思考を深めること」の大切さを再認識しました。また様々な学問における数学的コンセプトや定量的なツールとの向き合い方に悩んでいた私に、新たな視座を与えてくれる貴重な機会となりました。加えて、世界各地から集まった参加者たちとの交流を通じて、自分の関心や可能性が思いがけず広がり、自らの進路に対する選択肢をポジティブに増やすきっかけにもなりました。

最後に、大会への参加を快く応援してくれた家族と学校の先生方、そして参加を提案し、大会期間を通して惜しみないサポートを提供してくださった金融知力普及協会および鈴木さん、何度もぶつかりながらも対話を諦めず最後まで一緒に走り抜いてくれたチームメンバーに心より感謝申し上げます。

早稲田大学政治経済学部 1 年 村田友惇

今回 AAEO に日本代表団の Team Lead として参加した経験は私にとってかけがえのないものでした。EAC で共に闘った仲間たちとオーストラリアで再び共闘したことはかけがえのない経験です。チームが困難な状態に陥ったときは別の視点を提供し銅メダル獲得が決まったときは喜びを分かち合いました。主催者をはじめとしてこの度の代表派遣、大会運営に関わってくださった全ての方に御礼申し上げます。

所感

今回の参加はナイツ財団からの紹介を受け急遽決定したものであったが、銅メダルを受賞できたこともあり、参加者の満足度も、教育効果も非常に高いものであったと思う。また試験問題なども単純に記憶力を問われるものではないよい問題が出題されることが分かったことも収穫であった。大会の運営は Gigi Foster 教授とゼミ生でほぼ賄っており、IEO に比べてもなお手作り感のあふれるものであった。UNSW からの資金拠出を受けていることもあり、優秀な学生をリクルートするというのが目的の一つになっていると思う。

来季にも参加するかどうかは、今後検討の余地があるが、参加するとしたら、IEO 選考とは切り離れた CBT を用いた選考を行うべきと考える。また英語資格の得点も選考時に考慮すべきである。

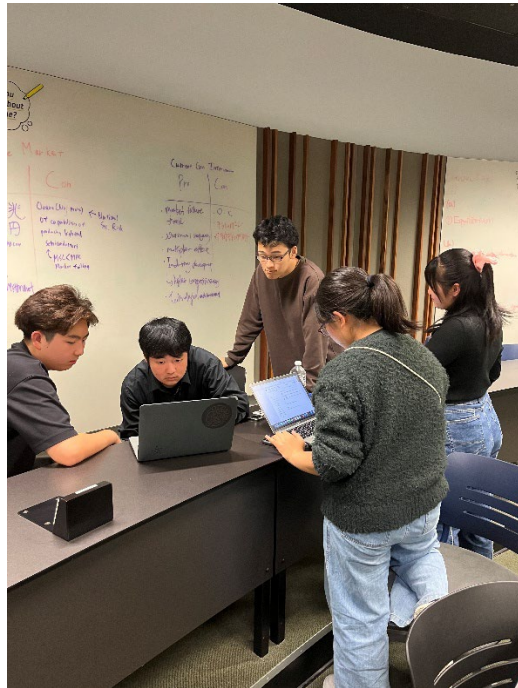
今回は望外のチーム対抗部門での銅メダルを得たが、いろいろな幸運が重なったものであるのは間違いない。実力で安定的に受賞できる水準まで成長するためには、推薦図書の設定や教育カリキュラムの整備など、道は長い。また、メダルを得られない場合、一切のフィードバックがなくなる点は憂慮すべき点である。

IEO と並びこの AAEO に継続的に参加することによって、海外で経済学留学を目指す若者の数と質が増えれば、わが国での金融経済教育の充実にもつながるものと考ええる。そのためにも今回の銅メダル受賞は非常に幸先の良いスタートとなった。

今回、参加を許可してくれた金融知力普及協会理事、大会につないでくれた香港ナイツ財団、参加を表明してくれた学生たちとその保護者の皆様に御礼を申し上げて所感の結びとした。皆様のおかげで、五名の参加者は素晴らしい経験を得ることができました。ありがとうございました。



会場の UNSW 大学で



政策作成の話し合い



プレゼンテーション



銅メダルを授与されました